

平成25年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	T. S. エリオットの「東洋哲学ノート」と彼の中道的思考の形成との関わり		
プロジェクト期間	平成24年度～平成25年度		
申請代表者 (所属講座等)	古賀元章 (英語教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	なし
取組方法・取組実績の概要	<p>【取組方法】 平成24年度に、弘前大学非常勤講師・翻訳家のA. C. アップル・マッシュューズ先生の協力により、イギリス人の詩人・劇作家・批評家で、ノーベル文学賞を受賞したT. S. エリオット (1888-1965) の未公開の手稿「東洋哲学ノート」(ハーバード大学ホートン図書館に所蔵) を可能な限り解読した。平成25年度に、翻訳会社「プログレス・インターナショナル」(福岡市) の協力により、この手稿の解読を可能な限り見直した。</p> <p>【取組実績】 「東洋哲学ノート」に記述された内容を検討した結果、インド、中国、日本における大乘仏教の教学の講義が再確認された。このような再確認は、「東洋哲学ノート」が当時のエリオットの中道的思考(極端に走らず、妥当な立場による考え)の形成に深く影響を及ぼしていることを研究する上で有益であった。</p>		
研究成果の概要	<p>本プロジェクトに取り組んだ研究成果が二つの論文に反映されている。これらの論文の概要を以下に示す。</p> <p>①「1910-14年のT. S. エリオットと「東洋哲学ノート」」(『比較文化研究』108号、日本比較文化学会、平成25年10月31日、25-41ページ) 1910-14年に、エリオットは自分の生き方を模索する苦悩が続いた。その苦悩を克服するため、彼は1914年に在外研究奨学金を獲得して、イギリスでF. H. ブラッドリー(1846-1924)の哲学を研究した。彼の行動を学問的に後押ししたのは、東京帝国大学教授で宗教学者の姉崎正治(1873-1949)が行った講義であった。 その点で、姉崎の講義を書き留めたエリオットの「東洋哲学ノート」(1913-14)の内容(人生の苦しみの受け止め方、現実を重視した行動)が注目されることを論じた。</p> <p>②「T. S. エリオットの教育論の特徴」(『福岡教育大学紀要』63号1分冊、平成26年2月10日、11-20ページ) 1940-51年のエリオットは、教育を他の分野(文化、政治)と関連付けて考えたり、教育の統一性と多様性が併存することを論じたりした。こうした考え方は、ブラッドリーの相対主義的な哲学と姉崎のハーバードでの講義(ナーガールジュナの大乘仏教、天台宗のフツダ観)の影響を受けている。 そこで、エリオットの中道的思考の教育論には彼の「東洋哲学ノート」の内容が反映されていることを指摘した。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック方願います。〕			
外部資金獲得申請(予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ()	研究成果の公表方法(予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 学会(国内・国外): 言語文化学会に投稿 <input checked="" type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等: 本大学紀要に投稿 <input type="checkbox"/> その他: